

## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	大阪大学	タイプ	A①
事 業 名	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成		
海外の相手大学	北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学、広東薬科大学、延世大学校、マヒドン大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、これまでの交流実績を活かすとともに、中国5大学、韓国1大学、タイ1大学が連携したプログラムに発展させ、健康問題解決に貢献できる世界的な高度専門人材であるグローバルヘルスリーダーの育成を目指しており、医学・公衆衛生学分野での高度な学術交流が期待できる。

プログラムの必要性と目的、養成する人材像が明確に示されており、既に開始したダブル・ディグリー・プログラムを、更に発展させようとしている。また、第2モードにおいて組織されたCA同窓会が既に機能的に活用されており、第3モードにおける本事業継続と2大学の追加拡大に向かって十分な準備が整っている。東アジアから全世界へ発展する将来への可能性を有しており、熱帯医学で協力の実績があるタイのマヒドン大学、大阪大学内の微生物病研究所が連携に加わることは、今後重要度が増すと思われる同分野での人材育成に事業の幅を広げるものと期待できる。

全体では、短期、中期、長期の留学プログラムと、実渡航、オンライン、ハイブリッドの3つの方式が、学生の成長を促す形で構成されており、ポストコロナを見据えたオンライン交流の工夫もみられる。また、予算に占める大学自己負担額が大きく、補助期間終了後の事業展開について期待が持てる。さらに、外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備が充実しており、内部質保証システム、国際教員会議等質保証にかかる取組も計画されている。

一方で、インターンシップを提供できることが強みだが、その具体的な内容はWHOインターンシップ・プログラムを除いては明確に示されていない。学生交流に関しても、30日未満の交流が主となっている理由や「自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生」のための教育内容が明確に示されておらず、今後の更なる可視化を期待したい。また、大阪大学におけるダブル・ディグリーへの取組は十分に理解でき、今後はジョイント・ディグリーに関しても更なる発展を期待したい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。